



日本の宝島“天草”の創造を目ざして!

# 天草

市政だより

夏の空にはためく  
虫追い旗

## 主な内容

- 「天草の崎津集落」世界遺産への登録を目ざして
- シリーズ“豊かな海づくり”
- ふるさと応援寄附金

平成25年

8/1

No.176

◆世界遺産の国内選定地一覧（それぞれ登録順）

文化遺産
① 法隆寺地域の仏教建造物（奈良県）
② 姫路城（兵庫県）
③ 古都京都の文化財（京都府）
④ 白川郷・五箇山の合掌造り集落（岐阜県）
⑤ 原爆ドーム（広島県）
⑥ 厳島神社（広島県）
⑦ 古都奈良の文化財（奈良県）
⑧ 日光の社寺（栃木県）
⑨ 琉球王国のグスク及び関連遺産群（沖縄県）
⑩ 紀伊山地の霊場と参詣道（三重県・奈良県・和歌山県）
⑪ 石見銀山遺跡とその文化的景観（島根県）
⑫ 平泉—仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群—（岩手県）
⑬ 富士山—信仰の対象と芸術の源泉（山梨県・静岡県）
自然遺産
① 屋久島（鹿児島県）
② 白神山地（青森県・秋田県）
③ 知床（北海道）
④ 小笠原諸島（東京都）

世界遺産とは

世界遺産とは、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が世界遺産条約（世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約）に基づき、普遍的な価値がある文化遺産や自然遺産を人類全体の財産として保護することなどを目的に、選定・登録しているものです。

世界遺産には、記念物や建造物群、遺跡、文化的景観などの文化遺産、地形や地質、生態系、絶滅のおそれがある動植物の生息・生育地などの自然遺産、これら双方を兼ね備えている複合遺産の3種類があります。

日本には17件の世界遺産

世界遺産に登録されている件数は、981件（文化遺産759件、自然遺産193件、複合遺産29件、6月28日現在）。このうち、日本は17件（文化遺産13件、自然遺産4件。左表参照）で、最近では6月に富士山が登録されています。

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は、450年以上にもおよぶ日本におけるキリスト教の伝来と浸透の過程を示す代表的な事例として、「天草の崎津集落」を含む13の遺産などで構成（右図参照）。世界文化遺産への登録を目指しています。

長崎の教会群とキリスト教関連遺産とは

◆「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」構成資産位置図



長崎県の取り組みとしてスタートし、平成19年に国がユネスコに推薦するための国内候補である、世界遺産暫定一覧表（通称「世界遺産暫定リスト」）に登録。天草の崎津集落は、キリスト教の歴史や文化をあらわすとして、昨年6月に同遺産の構成資産として追加されました。



天草の崎津集落

世界遺産への登録を目指して

日本におけるキリスト教の歴史を今に伝える、河浦町の崎津地区。同地区は、『長崎の教会群とキリスト教関連遺産』の構成資産として、世界文化遺産への登録を目指しています。

天草から世界遺産を——。今号では、世界遺産の概要や長崎の教会群とキリスト教関連遺産などについてお知らせします。「天草の崎津集落」について詳しいことは、本庁（別館）・世界遺産推進室 ☎ 231111 へお尋ねください。

「天草の崎津集落」を  
世界遺産に!

入場無料

## 世界遺産 シンポジウムを開催

「天草の崎津集落」について、市民の皆さんをはじめ、多くの人たちに理解を深めていただくため、シンポジウムを開催します。皆さんのご来場をお待ちしています。

●とき

9月1日(土)午後1時30分から

●ところ

富津地区コミュニティセンター  
(河浦町崎津)

●内容

①基調講演

【演題】世界遺産と地域の暮らし

～信仰・景観・旅・暮らし～

【講師】鎌田道隆氏(前奈良大学学長)

②パネルディスカッション

【パネラー】宮原良治氏(福岡司教区司教)、仲野義文氏(石見銀山資料館館長)、中村美生氏(河浦地区公民館長)、安田公寛・天草市長

【コーディネーター】鎌田道隆氏

【問い合わせ先】

本庁(別館)・世界遺産推進室 ☎ 1111



世界遺産推進室  
平田 豊弘 室長(学芸員)

市では今回の取り組みをさらに推進するため、市長を本部長とする「天草市世界遺産推進本部」を設置し、世界遺産の登録に向けた取り組みを、全庁的に進めているところです。

「世界遺産の登録の今後のスケジュール」は、まず今年の夏に、国が現在の国内候補の中からの遺産をユネスコに推薦するかを決定し、来年1月ごろにユネスコに推薦書が提出されます。その後、イコモス(国際記念物遺跡会議)という専門機関による現地調査が行われ、その調査報告を受けて再来年(平成27年)の夏に、ユネスコの世界遺産委員会に登録するかどうかの審議を行います。つまり、世界遺産の登録は、最短で2年後ということになります。

の、教会や神社の見学マナーはどうするのかなど、課題はたくさんあります。そして何より、崎津が世界遺産になることで、日ごろから地元で生活をされている住民の皆さん

に、負担やご迷惑になるようなことがあってはならないと思っています。世界遺産になることで想定される課題を整理して、その課題をどのように解決していくかを考えることが、行政の役割だと思っています。

「天草の崎津集落」の価値はどのようなどころにあるのか。日本にキリスト教が伝来したのが約450年前、その歴史は「伝来・展開」、禁教令による「弾圧・潜伏」、そして明治時代の再布教による「復活」です。このような中で、崎津は江戸時代の禁教下にあつて、キリスト教の信仰がひそかに続けられていたことを証明できる古文書や遺跡・遺物が、今も残されているという点に価値があります。

「なぜ世界遺産を目指すのか」まず、天草の歴史や文化が世界に認められるということ。そして、貴重な遺産を後世に伝えることができる、これが最大の理由です。崎津は「天草市崎津・今富の文化的景観」として、国の重要な文化的景観に選定されています。今後、崎津が世界遺産になれば、世界の宝物として、保護・保存体制が

「天草の崎津集落」の価値はどのようなどころにあるのか。日本にキリスト教が伝来したのが約450年前、その歴史は「伝来・展開」、禁教令による「弾圧・潜伏」、そして明治時代の再布教による「復活」です。このような中で、崎津は江戸時代の禁教下にあつて、キリスト教の信仰がひそかに続けられていたことを証明できる古文書や遺跡・遺物が、今も残されているという点に価値があります。

「なぜ世界遺産を目指すのか」まず、天草の歴史や文化が世界に認められるということ。そして、貴重な遺産を後世に伝えることができる、これが最大の理由です。崎津は「天草市崎津・今富の文化的景観」として、国の重要な文化的景観に選定されています。今後、崎津が世界遺産になれば、世界の宝物として、保護・保存体制が

# Interview

インタビュー

「天草の崎津集落」などについて、市世界遺産推進室の平田豊弘室長に話を聞きました。

時の人たちの信仰のようすを詳細に知ることができ、マリア観音像や、経消しの壺などの遺物がその証拠として残されています。そして、キリスト弾圧の象徴といえる「絵踏み」。これが行われていたのは、今の崎津教会が建っている場所であり、江戸時代は庄屋宅だったところ。毎年3月に実施されていたことが古文書などにより判明しています。



▲空から見た崎津(点線部分が構成資産の範囲)

さらに充実すると考えられます。また、その情報が発信され多くの人たちが崎津を訪れ、交流人口の増加による地域活性化の絶好の契機になります。このことは市全体に波及すると思います。そして、私たち市民にとっても、天草の崎津が「世界の崎津」になることで、誇れるもののひとつになるのではないかと考えています。

「世界遺産の登録に向けて課題などは」

確かに、世界遺産への登録はメ리트ばかりではありません。たとえば、崎津に多くの人を訪れることになれば、誰が案内をするのか、駐車場や休憩所はどこにする



「マリア観音像」 「経消しの壺」  
江戸時代の潜伏キリスト信者が信仰した遺物(天草口ザリオ館展示)。



「信仰を伝える古文書」  
キリスト教の信者が、弾圧で仏教に転宗したことを示す古文書。信仰のようすなどについて記されている(天草口ザリオ館展示)。



「旧崎津教会跡」  
明治17(1884)年、フェリエ神父により崎津教会の建設が進められたが、資金不足により中断し、同21(1888)年に完成。設計・施工は崎津村の大工、森田次次郎。その後、同教会跡には修道院が建てられた(写真は現在のようす)。



「崎津諏訪神社」  
崎津集落の潜伏キリスト信者が参詣していた神社。古文書には「何方へ参詣仕候ても矢張あんめんりゆすと唱申候」(どこにおまいりしてもアーメンデウスと唱えていました)と記されている。

「崎津教会」  
ハルブ神父により昭和9(1934)年に建設。設計・施工は長崎の建築家、鉄川与助。  
※教会は祈りの場です。節度をもって拝観してください(教会内部の写真撮影は禁止)。



※市世界遺産推進室撮影



「天草の崎津集落」の  
キリスト教関連遺産

# 豊かな海づくり

天草灘や有明海、八代海の3つの海に囲まれている天草。私たちは、日々海からの恩恵を受けて暮らしているといっても過言ではありません。

そこで、天草の海の豊かさ、大切さを今一度考えていただく“シリーズ「豊かな海づくり」”を、今号から3回にわたって掲載します。

今回は、牛深の昔の海を写真で振り返るほか、御所浦町で現在も続いている伝統漁法“とんとこ漁”について紹介します。

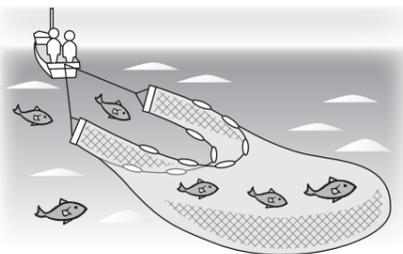
## 御所浦の伝統漁法 “とんとこ漁”



▲地元の中学生を対象にした“とんとこ漁”体験の様子

“とんとこ漁”は御所浦に昔から伝わる漁法で、一般的には吾智網漁といわれているものです。一艘の船で、袋状の網と魚を追い込むためのチェーン付きのロープを使って行います(下図参照)。以前は、この漁を行うときに魚を追い込むため船をたたいており、その音から“とんとこ漁”と呼ばれるようになったといわれています。

◆とんとこ漁のしくみ



## 牛深の昔の海を 写真で振り返る



写真①



写真②

### クロマグロが大漁

写真①は、牛深で水揚げされたクロマグロです。写真には、「昭和14年2月18日(まぐろ)大漁記念」と書かれています。当時、牛深沖にはクロマグロがいて、帆船で2～3人の乗組員により一本釣りで漁をしていたそうです。体長や重量などは不明ですが、見物人の大きさと比較することで、相当に巨大なクロマグロであったことがうかがえます。

### イワシの水揚げが全国2位

昭和20年代、天草はイワシの宝庫でした。この一大拠点となったのが、牛深港です。昭和24(1949)年には、同港のイワシの水揚げ量が全国で2位を記録しました。このときに行われていた漁法は巾着網漁(まき網漁)で、魚を取るときの網の形が巾着財布に似ていることから、この名前がついたといわれています。網を張る“網船”と、魚群を探す“灯船”、取った魚を運ぶ運搬船など5艘程度が1船団になって漁を行います。写真②は、巾着網による操業の様子のようです。大量のイワシが網に入っているのがわかります。

(写真提供:吉川茂文さん[牛深町])

### “とんとこ漁”を子どもたちに伝えていきたい



浦本 正準さん (御所浦町御所浦・76歳)

妻とともに、昭和41年から元の近海で“とんとこ漁”をしています。主にタイやフグ、タチウオなどが取れ、1年を通じて漁を行っています。

とんとこ漁は、私が子どものころから行われていました。冬にタチウオをとるようになっていたからです。もともと、タチウオはいたんですが、網をかみちぎってしまうので取るのを避けていました。ところが、このタチウオが高値で取り引きされていることがわかったんです。

また、とんとこ漁は春から秋までが主な漁期で、冬の漁はあまり思わしくなかったんです。それで、タチウオを取れば1年を通して漁が成り立つということで、広まったんだと思います。

### イワシの加工は住民総出 学校が臨時休校になることも



鯖江 要さん (牛深町・79歳)

クロマグロがよく釣れていたころ、私は4歳か5歳でした。記憶している中でいちばん大きなものは、約36貫(約135kg)もありました。子ども心にとっても大きく感じたのを覚えています。

昭和24年ごろは、イワシの巾着船の乗組員をしていました。このころは46の船団(約230艘)が牛深港を拠点にして漁をしていましたと記憶しています。当時は、イワシを取っても生きたまま流通することがほとんどなく、大部分が削り節や魚油などに加工されていました。このため、大漁の日は加工に多くの人手が必要になり、住民が総出で作業にあたりました。ときには学校が臨時休校になって、子どもたちも手伝いにかりだされるほどだったんです。

いちばん多いときで、当時は御所浦町全体で50艘以上の船がとんとこ漁をしていたと思います。そのころは、とてもにぎわいを見せていましたね。

現在、御所浦町でとんとこ漁をする船は、私も含めて10艘くらいになりました。私はこの漁が大好きです。まだまだ続けたいと思っています。10年後はどうなっているかわかりません。

とんとこ漁は、私が子どものころから行われていました。冬にタチウオをとるようになっていたからです。もともと、タチウオはいたんですが、網をかみちぎってしまうので取るのを避けていました。ところが、このタチウオが高値で取り引きされていることがわかったんです。

今後、子どもたちに御所浦の伝統漁法を伝えていきたいと思っています。

## オリーブの島づくりに向けて 高校生のアイデアに期待



▲天草工業高校の徳永次郎校長(前列左)と安田市長。  
後ろは同校の生徒たち

市と天草工業高校、苓洋高校は6月26日、オリーブの共同研究に関する協定をそれぞれ締結しました。協定は、オリーブの栽培・加工・販売を一貫して行う“6次産業化”の実現を旨として、共同研究を行うものです。天草工業高校では、オリーブの小型搾油機の開発、苓洋高校では水産物を使用した加工品の開発などが行われます。

この日は、協定調印式を両校でそれぞれ実施。安田市長は、「高校生のアイデアに期待しています」と話していました。



▲苓洋高校の山下和毅校長と安田市長

## 天草海道おもてなし一斉除草

7月14日、天草地域を通る国道沿いの除草を行う「天草海道おもてなし一斉除草」が実施され、全体で約1,000人が参加しました。県と天草市・上天草市・苓北町の主催で昨年からは行っているもの。集合場所のひとつ、本渡看護専門学校には住民や各種団体、市職員など約80人が集合。参加者は草刈り機やかまを手に、天草瀬戸大橋の道路沿いに生い茂った雑草を刈り取っていました。



## きれいな道路の景観を 目指して



▲天草瀬戸大橋で作業を行う参加者たち

# ふるさと応援寄附金

## たくさんの応援をいただきました

### ●寄附の状況をお知らせします

「天草市ふるさと応援寄附金」は平成20年6月に始まり、同事業への取り組みに対するご理解とご協力により、多くの応援をいただくことができました。平成24年度中に寄せられた寄附金は、全国各地から107人(111件)・953万228円の寄附をいただいています(詳細は右表をご覧ください)。

寄附をいただきました皆さんはもとより、応援寄附金のPRをしていただいた市民の皆さんに心から感謝申し上げます。

### ●引き続き“天草ファン”募集中!

天草市は、藍より青い海や緑深い山々など豊かな自然に恵まれており、市民が安心して快適に生活できる環境づくりや産業の振興と地域間交流を図りながら、地域資源をいかしたまちづくりに取り組んでいます。

これからも、『日本の宝島“天草”』づくりへのご支援として、全国各地でご活躍の皆さんからの「天草市ふるさと応援寄附金」へのご協力を引き続きお願いします。あわせて、市民の皆さんには、この取り組みをより多くの人に知ってもらうために、市外にお住まいの親類や知人の皆さんなどへのPRにご協力をお願いします。

寄附の手続きについては、事前の申し込みが必要です。申込書は、直接電話で本庁・財政課へ請求していただくか、市のホームページから取得していただくことになります。

### ◆メニュー別の寄附件数と金額

<b>1</b> “天草の宝”『地域コミュニティづくり』 ・10のまちづくり協議会と51地区振興会への支援・補助	70件・632万4,000円
<b>2</b> “天草の宝”『安心して元気に暮らせる環境づくり』 ・高齢者などの体力・健康づくり事業や、安心して子どもを生み育てる環境づくり事業など	8件・130万円
<b>3</b> “天草の宝”『将来を担う子どもづくり』 ・少人数学級の推進や特別支援学級への補助教員の設置事業、学校図書館の活性化事業など	6件・23万4,228円
<b>4</b> “天草の宝”『若者が安心して働ける産業づくり』 ・企業誘致促進事業や担い手育成支援事業など	6件・10万円
<b>5</b> “天草の宝”『拠点づくり』 ・市役所本庁舎の建設事業(平成27年度をめどに建設を予定)	1件・5,000円
<b>6</b> 市長おまかせコース ・特に事業の指定がない場合は、市長が必要と認める事業に活用	20件・156万7,000円

### ◆地方別の寄附人数と金額

地方名	人数	金額
関東	57人	482万円
中部	4人	21万円
近畿	25人	182万9,000円
中国	1人	5万円
四国	1人	1万円
九州(熊本県内を除く)	11人	138万5,000円
熊本県内	8人	122万6,228円

## 一回×回 ふるさと納税制度とは

ふるさと納税制度とは、「ふるさとを応援したい」「ふるさとの発展に貢献したい」と思われる皆さんが、出身地などの地方自治体(都道府県・市区町村)に寄附をした場合に、寄附金の2,000円を超える部分について、居住地の住民税(所得割)のおおむね1割を限度に、所得税と翌年度に課税される住民税から税額控除されるものです(右イメージ参照)。

なお、法人が寄附をした場合は、法人税を算定される際に、寄附金の全額を損金に算入できます。

### ◆ふるさと納税制度のイメージ



【問い合わせ先】本庁・財政課 ☎1111



▲オリジナルのタコつぼを製作する参加者



▶タコつぼを投入するようす

## たくさんのタコが捕れますように

タコつぼの投入式

有明町の大浦地区振興会が実施している「タコつぼオーナー制度」のスタートとして6月23日、大浦漁港で「タコつぼの投入式」が行われ、抽選で選ばれたオーナーとその家族など約60人が参加しました。一口5,000円でタコつぼを2個購入し、そのつぼで捕れたタコのすべてがオーナーのものになるというものです。漁は地元漁師が行います。

参加者は、タコつぼにイラストなどを書き入れてオリジナルのタコつぼを製作。その後、船で投入場所まで移動し、タコつぼを投入するようすを見守りました。参加者は、「たくさんのタコが捕れるとうれしい。大きなタコが捕れるのを楽しみにしています」と話していました。

## 早期完成を願って

『本渡道路「(仮称)第二天草瀬戸大橋」事業着手記念式』

6月23日、『本渡道路「(仮称)第二天草瀬戸大橋」事業着手記念式』が本渡南地区コミュニティセンターで行われ、関係者など約200人が参加しました。式典では、蒲島郁夫・熊本県知事が「天草の発展、熊本の発展のため、早期完成を祈っている」、安田市長が「1日も早い早期完成を目ざし、全力で取り組んでいきたい」とあいさつ。また、瀬戸小学校3年の江崎こころさんと本渡南小学校6年の向浩太郎くんが、第二天草瀬戸大橋にかかる思いを作文にし、それぞれ発表しました。その後、本渡港南側岸壁で事業着手の第一歩となる測量基準点の設置セレモニーが行われました。



▲測量基準点を設置する蒲島知事と向くん、江崎さん

## 短冊に願いを込めて

七夕飾り

6月30日、天草町の大江地区にある老人福祉施設で七夕の飾りつけが行われました。七夕飾りの材料は、大江地域づくり振興会が提供したもの。入所者は、「世界が平和でありますように」「家族が健康でありますように」など思いおもいの願いごとが書かれた短冊と、色とりどりの折り紙で作られた飾りを笹の葉にとりつけていました。このほか、同振興会では七夕にちなんで製作した7本の七夕飾りを、地区内を通る国道389号沿いに設置。道行く人たちの目を楽しませていました。



▲老人福祉施設で笹の葉に飾りつけをする入所者たち



▲オクラを収穫する稲田さん

## 大きなオクラが実りました

倉岳町でオクラの収穫が最盛期

倉岳町特産のオクラの収穫が、最盛期を迎えています。町内75戸の農家が4haで栽培。同町を管内とするJAあまくさは、県内でもっとも多い出荷量を誇り、その内の約6割が倉岳産です。7月17日には、棚底地区でオクラ10aを栽培する同農協倉岳支所・オクラ部会長の稲田秀敏さんが、早朝から大きく実ったオクラを収穫していました。11月上旬まで、主に関東・関西方面へ出荷されています。

## 伝統料理を若い世代に伝える

伝統料理教室

6月30日、新和町の宮南地区コミュニティセンターで「伝統料理教室」が開かれ、地元の子どもや保護者など20人が参加しました。宮南地区振興会が、同地区の伝統料理の作り方を若い世代に伝えるために初めて開催したもの。

参加者は、地元の老人会の皆さんの指導を受けながら、「ぶたあえ」「タコとキュウリの酢の物」「アオサ汁」の3品を調理。タコや野菜を切ったり、味付けをいっしょにしたりするなど真剣な表情で取り組んでいました。その後、できあがった料理を食べ、子どもたちは「おいしかった。またいっしょに作りたい」と笑顔で話していました。



▲老人会の皆さんの指導を受けながら野菜を切る子どもたち

## 熱い戦いに大きな声援!

かわうらエンジョイミニバレーボール大会

6月16日、河浦まちづくり協議会主催の「第19回かわうらエンジョイミニバレーボール大会」が河浦中央体育館で行われ、5種目に47チーム・約330人が参加しました。スポーツを楽しみ、地域の連携と親ぼくを深めてもらおうと毎年開催しているもの。参加者は息のあったプレーで熱戦を展開。また、「父の日」でもあったこの日は、プレーをしているお父さんたちに子どもたちが大きな声援を送っていました。



▲熱戦を繰り広げる参加者



◀総合グランプリを受賞した佐用さん



▶gajuさんが制作したトロフィー

## 自慢の歌声を競う

牛深ハイヤ節全国大会

6月29・30日、牛深ハイヤ節の唄を競う「第13回牛深ハイヤ節全国大会」が牛深総合センターで開かれ、全国から100人が出場しました。同大会は、年代ごとに5つの部門を設けて予選・決勝（ジュニアの部は決勝のみ）を行い、ジュニア部門を除く各部門の優勝者で総合グランプリを競うものです。

結果は、実年の部で優勝した牛深町から出場の佐用里美さんが、総合グランプリを受賞。佐用さんには、牛深町出身の造形作家gajuさん（熊本市）が制作したトロフィーなどが贈られました。

## 読み聞かせの基本を学ぶ

読み聞かせ学習会

6月22日、御所浦地区公民館主催の「読み聞かせ学習会」が開かれ、地区住民28人が参加しました。読み聞かせに興味がある人を対象にした全3回の学習会で、今回が1回目。

参加者は、牛深図書館の坂田文香館長らから、読み聞かせに入るまでの流れや絵本の選び方などを学びました。また、聞き手の興味をひくための“手遊び”の指導もあり、熱心に取り組んでいました。



▲“手遊び”をするようす



▲クロメ丼500円



▶店内のようす

## 新鮮な魚介類が味わえます！

漁協が運営するレストランがオープン

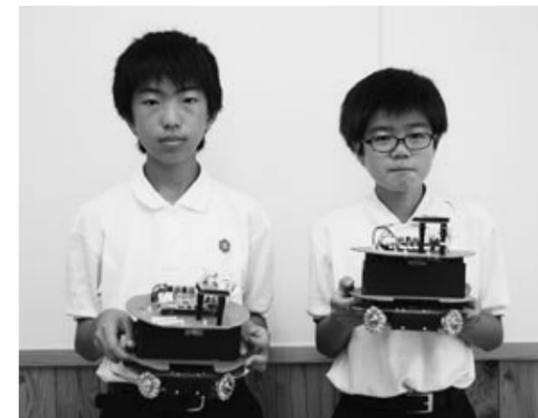
天草の新鮮な海の幸を堪能できる「天草漁協レストラン」が、五和町二江にある同漁協五和支所内にオープンしています。県内では唯一の漁協が直接運営するレストランで、海産物などを販売する直売所も併設されています。新鮮な地魚を使った海鮮丼や五和町特産の海藻“クロメ”を使用した丼、ウニ丼（9月末まで）をはじめ、焼きアワビや焼きヒオウギ貝も販売しています。

8月末までは、水曜日を除き毎日営業。ただし、お盆は14日☎営業、同15日☎・16日☎は休業となります。9月以降の営業日などの詳細は、同支所直売所☎0240へお尋ねください。

## 自作ロボットが世界で躍動！

本渡中学校の生徒がロボットの世界大会に出場。本渡中学校2年の谷颯真さんと吉田翔さんが、6月26日から同30日までオランダで開催された「ロボカップジュニア世界大会」のサッカー競技に、日本代表として出場しました。自作のプログラムを組み込み、ロボット自身が判断して動く「自律型ロボット」の性能を競うもので、県内からの同大会への出場は、2人が初めて。競技は、縦1.8m、横1.2mのコートに1チーム2台のロボットで実施。ロボットが、ボールが発する赤外線を感知し、ゴールまで転がして得点を競います。結果は、18チーム中、ベスト8と大健闘。

谷さんは、「次の大会も出場し優勝を目指したい」、吉田さんは「1勝するという目標が達成できてよかった」と話していました。



◀自作したロボットを持つ谷さん（右）と吉田さん（左）



◀大会のようす



▲踊りを披露する出演者たち

## 大いににぎわった文化の祭典

天草市民芸術祭・芸文祭in栖本

6月30日、栖本福祉会館で「天草市民芸術祭・芸文祭in栖本」が開催され、栖本町内外から約400人が来場しました。市芸術文化協会が毎年実施しているもので、同町では初めての開催。

会場では、同協会会員らによる絵画や書道、パッチワークなどの作品200点以上を展示。ステージでは地元の愛好家によるフラダンスや、市内の各芸能クラブが歌や踊りなどを披露し、大いににぎわっていました。

## 天草のうんまかもんがずらり！

熊本天草うんまかもん祭り

7月10日から同15日まで、横浜市泉区にあるイトーヨーカドー立場で「第2回熊本天草うんまかもん祭り」が開かれました。同店内に出店している“あまくさ宝島市場”が、天草の産品の魅力を都市圏へ発信しようと開催したもの。期間中は、天草市内の生産者や飲食業者など20業者が参加。地鶏の天草大王からとったダシを使った皿うどんや、鯛めしなどが販売されたほか、かんきつ類や野菜、特産品など282点がずらりと並び、会場は多くの買物客でにぎわっていました。



▲生産者と話しながらい買物を楽しむお客さん



保育園大好き、お友だち大好き、仲間っていいな!!

東町保育園 (東町)

園児フォトスナップ



「げんき・なかよし・よいこ」ニコニコ笑顔で毎日元気に遊んでいます

御領幼稚園 (五和町)

# 若っ喝采 フッガッサイ!!

櫻木ほなみさん  
(下浦町・19歳)

2月から、河浦病院で看護助手として働いています。仕事を始めて日が浅いので、勉強しなければならないことがたくさんありますが、患者さんから「ありがとう」と喜んでもらえたときは、とてもうれしく思います。楽しみは、天草市勤労青少年ホームのヨガ講座やパドミントンに行くこと。いろんな人と交流ができるところが魅力です。

私は、天草が大好きです。若者として天草を盛り上げて、地域に貢献できる人になりたいと思っています。



# 天草の元気が大集合! ひろば みんなの広場



## おどろき夫婦

井上 <sup>みつお</sup>光雄さん(80歳)  
<sup>きよこ</sup>清子さん(75歳)  
有明町上津浦

昭和37年結婚  
(51年目)

◆夫婦円満の秘けつを教えてください。  
健康づくりとして、いっしょに農作業をすることです。また、息子3人が近所に住んでいて、私たちのために誕生会を開いてくれたり、家族旅行に連れて行ってくれたりします。これも夫婦円満につながっていると思います。

◆お互いにひとつお願いします。  
光雄さん：子どもたち夫婦に負けないように、仲良く元気に過ごしていきましょう。  
清子さん：父ちゃんがないと心細いです。孫の成長を楽しみながら、健康に気をつけて明るく過ごしましょう。

# ザ・部活動

部活動をがんばる中学・高校生



## 連覇を目ざして

船本 <sup>ちゆき</sup>千幸さん  
新和中学校 (新和町) 器楽部・3年

保育園のころからピアノを習っていて、小学生のときから器楽部に入っていました。部員10人が全員、木琴の一種の“マリンバ”をしていて、私は部長を務めています。目標にしている人は、市出身で東京を拠点に打楽器奏者として活動されている辻田佳代子さんです。辻田さんのような豊かな演奏を夢見て、練習に励んでいます。

10月には、RKK熊本県小・中学校器楽合奏コンクールがあります。昨年は先輩方の活躍もあり、最優秀賞をいただきました。“連覇”を目ざして、部員一同練習をがんばりたいと思います。

## 作品名「歯みがきで健康な歯に！」

天草小学校 (天草町)  
4年 平井亮大くん



毎日、朝・昼・夕の歯みがきをがんばっています。おとなになってもずっと虫歯のない健康な歯であればいいなあと思います。



# こども芸術館



作品名：「通天橋から見た風景」

天附小学校 (牛深町)  
6年 砂月梨花さん



海の色がとても美しいので、その良さを表現するために何度も塗り直しました。また、景色の立体感を出すことに挑戦しました。



だいさく  
松本大作さん  
(牛深町・49歳)

## 豊かな海を 次世代へつなぐために

牛深町の牛深漁港（須口）を拠点に、妻とともに漁業を営んでいる。15歳でおじが営む漁船の乗組員となり、漁業の道へ。その後、結婚を機に27歳で漁船（8.5トン）を購入し、独立。漁業歴30年以上のベテラン漁師だ。松本さんが漁を行う場所は、同漁港から約20kmの沖合いに広がる、好漁場として知られている天草灘。「マダコやシロサバフグ、ヒラメ、モジャコ（プリの稚魚）など、四季折々に取れる旬の魚が相手です」と松本さん。マダコはタコつぼ、シロサバフグはかご網、ヒラメは刺し網など、とる魚によって漁法も変わる。現在はタコつぼ漁がシーズン。約3,000個のタコつぼを投入し、漁を行っている。

そんな松本さんは、天草漁協牛深総合支所・青壮年部（会員35人）の部長を務めており、稚魚の放流事業や牛深漁港に水揚げされている魚のPRを積極的に取り組んでいる。中でも、シロサバフグの消費拡大を図ろうと、毎年12月に開かれている“牛深あかね市”で、この素材をいかしたから揚げやみそ汁を販売。から揚げは白身でたんぱくな味、ふんわりとした食感で「これを目当てにして訪れるお客さんもある」という。また、同部会の会員にはフグの調理師免許の取得者がおり、今後は加工済みのシロサバフグを地元の鮮魚店や飲食店などにも提供することを検討しているそうだ。

「天草灘でとれる魚の味には、絶対の自信がある。そして、豊かな海を次世代へつなぐためにも、取り組みを続けていきたい」。松本さんの挑戦はこれからも続く。



▲タコつぼを整理する松本さん

今月の

h i t o

## ハッピーバースデー

…今月で1歳になります…

投稿  
コーナー



ほると ゆうと  
松元 暖翔くん 優翔くん

新和町小宮地  
父・孝文さん 母・綾さん  
5つ上のお兄ちゃんといつも仲よく遊んでいます。



たつき  
吉田 龍生くん

御所浦町横浦  
父・裕典さん 母・美鈴さん

1歳になりました。まだまだ大きくなるぞー！



かいと  
福島 快音くん

志柿町  
父・透さん 母・愛弓さん

じいじ、ばあばいつもありがとう☆逞斗兄ちゃん大スキ♡



ゆしん  
渡邊 裕心くん

本渡町広瀬  
父・淳広さん 母・街子さん

いつも元気いっぱい!!食べて遊んで大きくなるぞー!



まお  
作本 真凰ちゃん

久玉町  
父・憲一さん 母・里香さん

じいじ、ばあば大好き♡いつもここにこおてんば娘♡



じょういちろう  
松川 文一郎くん

本渡町本戸馬場  
父・晃文さん 母・松美さん

パパに負けず天草イチのプレイボーイになるぞー!!



ゆうと  
脇崎 悠仁くん

深海町  
父・悠太さん 母・理恵さん

じいじ、ばあば大好き♡これからも、たくさん遊んでね。



とえる  
鬼塚 登得くん

楠浦町  
父・俊行さん 母・恵子さん

おじいちゃん、おばあちゃん、いつもありがとう♡



しんぺい  
小浦 心平くん

五和町御領  
父・祐一さん 母・かおるさん

家族みんな大好き♡たくさん食べて大きくなるね。

皆さんからの投稿を募集しています！ ●応募期限＝8月12日⑩まで（必着）。

〈9月で満1歳になるお子さん〉

●応募方法＝写真裏にお子さんの住所、氏名（ふりがな）、生年月日、性別、電話番号、コメント（30字以内）、保護者名（父・母）を記入してください。なお、写真はお子さんが大きく、鮮明に写っているものをお願いします。また、写真の掲載は9人まで（応募者多数の場合は抽選）とし、応募写真は返却しません。

〈読者のつぶやき〉

●応募方法＝身近であったできごとや、季節に思いをはせることなど、150字程度をまとめたものに、ペンネームと住所、氏名、電話番号を記入してください（応募者多数の場合は選考）。  
※表記などを統一するため、趣旨を変えずに文章を直すことがあります。  
※採用されたつぶやきは、この紙面に掲載します。

【郵送・持参先】〒863-8631 市内東浜町8-1（郵送の場合は住所記載不要）天草市役所・秘書課



# 市長随筆

Mayer Essay



## おもてなし一斉除草に参加

7月14日の朝7時から行われた、市内の国道沿線のごみ拾いや除草をする「天草海道おもてなし一斉除草」に参加しました。

この取り組みは、観光地・天草の魅力アップを図るために、官民一体となって美しい道路景観の向上を図ることを目的に、昨年度から始めたものです。

私は天草工業高校前の国道沿線の草払いをしました。当日は天草地域の各所で各団体や地域の方々など、多くの皆さんにご参加いただきました。

季節柄、雑草は伸び放題に伸びており、かまを片手に1時間ほど作業を行いました。きれいに除草された道路を見ていると、作業後の爽快感と相まって、すがすがしい気持ちになりました。

今回のような清掃活動は、道路周辺に限らず、海岸や山、観光施設などのさまざまな場所で、学校や職場組織、各地区単位などで、ほんとうに多くの皆さんにお取り組みいただいています。一人ひとりが清掃できる範囲は限られていますが、この活動の積み重ねが美しい天草をつくり上げていくものだと思います。

いよいよ、天草がもっとも輝く季節「夏」本番です。さらに、秋にかけては大きな会議や催しが天草で開催されますので、例年以上に多くの皆さんがお越しになることが見込まれています。

おもてなしの心でお迎えするのはもちろんですが、天草の美しさを思い出にいただけるように、皆さんのご協力をお願いします。

天草市長 安田公寛

## 消費生活

### 「クーリング・オフ」ご存じですか？

「クーリング・オフ」は、訪問販売や電話勧誘販売で交わした契約を、所定の期間内であれば無条件に解約できる制度です。

#### ◆クーリング・オフができる取り引きと期間

- 訪問販売・電話勧誘販売・特定継続的役務提供(エステティックなど)・訪問購入……………8日間
- 連鎖販売取引(マルチ商法)・業務提供誘引販売取引(内職商法)……………20日間

※店舗販売や通信販売で購入した商品は、クーリング・オフができません。

上の期間を過ぎていても、書面の不備や嘘の説明などがあれば契約を解約できる場合がありますので、まずはご相談ください。

なお、クーリング・オフの方法についての詳細は、市消費生活センターへお尋ねを。

#### 【問い合わせ先】

市消費生活センター ☎②6677

## 実践 エコ暮らしのECOセトラ

### 家庭でできる川や海にやさしい暮らし

私たちの身近にあるきれいな川や海は、家庭から出る生活排水で汚れます。

そこで、家庭でできる川や海にやさしい暮らし方について紹介します。皆さん、ぜひ実践してみませんか。

 食器やフライパンの油污れは、キッチンペーパーなどでふきとってから洗う。

 油は排水口に捨てずに、廃食用油として資源物回収へ。  
 米のとぎ汁は、植物への水やりに利用。

 洗濯洗剤は、きちんと量を計って使う。

 浄化槽を持っている人は、定期的に点検や清掃を依頼する。

#### 【問い合わせ先】

本庁・市民環境課 ☎②1111



▲調理実習のようす

市や関係団体で組織する天草市オリーブ振興協議会では、子どもたちにオリーブオイルの関心を高めてもらい、オリーブを通じた食育を推進しようと、講演会や調理実習を実施しています。

6月6日には、牛深東中学校でオリーブオイルソムリエ、出張料理人の小暮剛さんを講師に招いて「オリーブ講演会」を開催し、同校の生徒110人が参加。小暮さんが天草でのオリーブ栽培の状況をはじめ、自然豊かな天草でとれる食材のすばらしさ、その食材とオリーブオイルとの相性の良さを解説され、生徒たちは熱心に聞き

入っていました。その後、2年生の生徒36人を対象にして、日本有数の生産量を誇る牛深産の「雑節」(サバやトビウオなどの削り節)と、オリーブオイルを使ったサラダの調理実習を実施。試食をした生徒は、「野菜が苦手でしたが、オリーブオイルを使うとおいしく食べられた」と話していました。

今回の講演会を通して、生徒からは「雑節が牛深の名産とは知らなかった」「自分たちはいいところに住んでいるんだと思った」などの声がかげられました。オリーブについて学ぶだけでなく、天草のすばらしさを再認識する良い機会にもなったようです。

同協議会では、今後も子どもたちを対象にしたオリーブオイルの普及・啓発に取り組んでいきます。

※詳しいことは、本庁(別館)産業政策課 ☎②1111へお尋ねください。



## オリーブの島づくり

### オリーブ講演会を開催しました

たより

### 天草市男女共同参画センター

## ぽぽらす通信

※「ぽぽらす」とは、イタリア語で市民などを意味する「ポポラーレ」と、拠点をイメージさせる言葉である「巣」を組み合わせた造語です。



▲打ち合わせを行う同会の皆さん

### “ぽぽらす”は男女共同参画社会づくりの拠点です！

ぽぽらすは、男女共同参画社会を進めるための拠点施設です。男女共同参画社会を推進する団体が「団体登録」を行うことで、ぽぽらす内の会議室を利用することができます。

登録団体のひとつである「あまくさ♡認知症を地域で支える会」(塚本二美会長、会員160人)は、認知症の人やその家族を地域で支えていくことを啓発するため、各種イベントで寸劇の披露や子どもを対象にした紙芝居の朗読などを実施しておられ、寸劇の練習や打ち合わせなどにぽぽらすを利用されています。

ぽぽらすでは、このような各種団体と連携し、また、支援を行うことで男女共同参画社会づくりを進めています。

#### 登録団体を募集！

ぽぽらすでは、男女共同参画社会づくりに賛同し活動を行う団体を募集しています。登録方法などの詳細は、ぽぽらすへお尋ねください。

【問い合わせ先】市男女共同参画センターぽぽらす ☎②8200



今月号の表紙

7月14日に河浦町河浦で行われた、市無形民俗文化財“一町田八幡宮虫追い祭り”のようす。住民たちは、5色の旗を付けた長さ約15mの虫追い旗を手に地区内を練り歩き、豊作を祈願しました。

編集後記 **あとぜき**



先日、小学校の学級活動で“すいか割り”を実施。子どもたちの迷走にみんな大盛り上がり。「もっと右!」「まだ前まえ!」など、盛んなアドバイスにますます迷走。うまく割ることができた子どもは大喜び。楽しいひとときでした。【剣】



仕事の帰り道に、流れ星を見ました。夜空を見ることが好きな私。流れ星はあっという間に消えてしまい、願いごとではできませんでしたが、めったに見ないのでうれしかったです。夏の暑さや仕事の疲れが一気に吹き飛びました。【風】



この前、とある場所で蛇に遭遇。もう怖くてこわくて「蛇に睨まれた蛙」の状態でした。年に数回はあることです。一方、家では妻（巳年生まれ）を前にして同じような状態になることが。こちら、年に数回はあることです…。【素】



【編集・発行】

熊本県天草市役所  
総務部秘書課広報広聴係  
〒863-8631 天草市東浜町8番1号  
TEL 0969-23-1111  
FAX 0969-22-7016  
URL <http://www.city.amakusa.kumamoto.jp/>  
E-mail [hisyoka@city.amakusa.lg.jp](mailto:hisyoka@city.amakusa.lg.jp)

「市政だより天草」は再生紙を使用しています。



# 農林水産物

Vol.16

## しいら (まんびき)



しいらの水揚げが始まっています。白身でクセがなく、バター焼きやフライにして食べると美味です。

天草漁協によると、主な水揚げ地である牛深では例年約400トンの水揚げ。10月まで漁が行われます。



手軽においしく

ささっと  
レシピ

### カツオのたたきとサラダ玉ねぎのドレッシングあえ

さっぱりとした味で、野菜をたくさん食べられます。刺身や野菜はお好みのものに変えるなど、いろいろとアレンジもできます。ぜひ、お試しください。

#### ●材料・分量 (約4人分)

カツオのたたき …… 200g  
きゅうり …… 1本  
サラダ玉ねぎ …… 中玉1個  
にんじん …… 適量  
青じそ …… 適量

#### 〈ドレッシング〉

酢 …… 50cc  
しょう油 …… 50cc  
砂糖 …… 大さじ2杯  
ごま油 …… 大さじ1/2杯  
すりごま …… 少々

#### ●作り方

- ①カツオのたたきは、1cmくらいの厚さに切る。
- ②きゅうりとサラダ玉ねぎは薄切り、にんじんと青じそは千切りにする。
- ③①と②を皿に盛り付けて、ドレッシングをかける。

提供：市食生活改善推進員協議会